東北６県と整備局が創る
河川・ダム・砂防・海岸事業の新たな連携

「個性の大地」

第２号（平成１３年３月）
東北地方整備局 河川部
地域河川課　発行

「ダム工事関係設計積算担当者会議」開催される

《県と整備局の初めての実務的な連携会議》



<直轄と補助の情報交換の重要性を説く、
整備局 藤野河川部長挨拶＞

平成１３年１月６日、中央省庁再編により東北地方整備局が誕生し、従来の直轄事業に加え、河川、砂防、ダム、海岸等の補助事業に係る事務も担当することになりました。これに伴い、東北地方整備局河川部においては、補助事業の予算業務を主とする地域河川課を新設したほか、河川部の各課において業務を分担し、河川部一丸で補助事業を遂行することとなりました。これにより、直轄事業と補助事業の連携を図り、これまでにも増して水系一貫の整備推進を目指します。

東北地方整備局における直轄のダム事業については、昭和１６年に全国に先駆けて北上川水系の田瀬ダムに着手して以来、数多くのダムを完成させてきました。特に、我が国最初のロックフィルダムの石淵ダム、直轄で始めてのアーチダムの鳴子ダム、珍しいダブルアーチ型式の大倉ダム（宮城県管理）等、全国に先駆けた「ダムづくり」を進めてきました。補助ダム事業においても昭和８年に我が国最初の多目的ダムとして計画された岩木川水系の沖浦ダム（青森県）等、東北地方の補助ダムも治水・利水上の重要な役割を果たしてきたところです。

今回、２月２６日に仙台市内において、補助ダムの積算協議の窓口である河川部河川工事課主催で行われた「ダム工事関係設計積算担当者会議」では、**従来の直轄の担当者だけではなく、各県のダム担当者も含めた会議を開催し**、今後のダム工事積算関係、ダム工事の留意点、直轄ダムの取り組み、各県のダム事業の紹介、新技術・新工法に関する全体討議等を行いました。

今回の会議は整備局が発足してから県と合同の初めての実務的な会議であり、今後の各県との連携にとって重要な会議となりました。会議は、各県、東北地方整備局河川部・各ダム事務所から約９０名が出席し、活発な情報交換及び討議が交わされました。

出席した各県の担当者の声を聞くと**「これまでにはあまり得ることができなかった情報を得ることができた」**「直轄ダムの技術の高さに驚いた」「直接技術的なことを聞ける」「反面、知りすぎているので説明や資料が増えるのでは」等様々な感想を持っているようでした。



＜各県のダム事業担当者も多数出席＞

会議に出席した県担当者の声

ダム事業の中止が相次ぐ中、東北６県で「河川開発課」が残っているのは、唯一当県のみとなってしまいました。

今後もこのような機会を数多く設けていただき、整備局、県との益々の連携を図って行く必要があると思いますので、よろしく御指導をお願い致します。

（福島県河川開発課担当者）

＜地域連携シリーズ：各県からの報告＞

職場めぐり　～青森県・浅虫ダム～

青森県 浅虫・駒込ダム建設事務所

私たちの職場である青森県浅虫（あさむし）・駒込（こまごめ）ダム建設事務所は、下湯ダムの管理と駒込ダム・浅虫ダムの建設を担当しています。

今回は、浅虫ダムについてお話をいたします。浅虫ダムは、「津軽の奥座敷」と呼ばれる東北有数の温泉地、浅虫温泉街の中心部を流下し陸奥湾に流入する、二級河川浅虫川に建設されています。

浅虫川は、流路延長５．０ｋｍ、流域面積６．３ｋｍ^{2}の小さな河川で、局部改良事業等により河道整備されていましたが、昭和４０年、４１年、４４年と未曾有の災害が相次ぎ、抜本的な治水対策が切望されました。河道拡幅による浅虫川の再改修は、沿川が住家・旅館の密集する温泉街のため不可能であり、温泉街上流部にダムを建設することとしました。

浅虫ダムは、温泉資源への影響を排除するため、ダム高をＨ＝９．０ｍに抑えるとともに、杭基礎で支持させ、洪水は洪水吐トンネルで直接陸奥湾に放流させる計画としました。

浅虫地区では、「蛍谷」「蛍沢」という地名が示すとおりホタルが生息しており、ダム周辺の環境整備にあたっては、ホタルの飛び交うダムを思い描き、ダム湖は「浅虫ほたる湖」と命名されました。青森県の代表的な観光地としての「浅虫地区コースタルリゾート開発計画」等と併せて「浅虫ダム」は、地域活性化の一環として熱い期待が寄せられています。

ダムは、平成２年に建設事業に着手、平成８年に本体工事に入り、平成１４年に完成予定で、現在、平成１３年１１月より開始する試験湛水に向け準備を進めています。

この１月より東北地方整備局が発足し、ダム事業についても整備局のご指導を得られることから、より地域性を生かしたダム創りができることと大いに期待しているところです。ホタルの再生については、青森工事事務所のご指導を得ながら進めていますが、東北地方整備局では、数多くの直轄ダム等を手がけられており、豊富な経験を有するとともに地域の特性を十分把握されていることから、整備局のご指導を得ながら地域に密着したダムづくりを進めたいと思います。



＜写真：浅虫ダム上空より＞

各県の砂防・河川開発課長と仙台市の河川課長の声

青森県砂防課長



藤江　良雄

「輝く青森新時代」の実現に向けて期待すること

２１世紀という変革の時代にあって、本県砂防事業も「悠々・安心・快適社会」の実現に向け、従来の土砂三法によるハード対策や土砂災害防止法に係るソフト対策等、土砂災害の防止に努めております。一方、社会資本整備をめぐっては、事業の効率性や質の向上、行政の透明性の確保等、新しい取り組みが求められています。こうした時代の転換期に東北地方整備局が誕生し、国と県との関係が緊密になることは力強い限りであり、大いに期待しております。地域に暮らす誰もがゆとりを持って、快適で安心して暮らせる「輝く青森新時代」の実現に向け、ご指導・ご協力よろしくお願いいたします。

岩手県砂防課長



小林　昭彦

特色ある砂防施策のリーダーとして期待

新たな世紀の幕開けとともに、東北地方整備局が発足されましたこと、お慶び申し上げます。

本県土木部では、平成１２年3月に「岩手県住宅・土木基本計画」を策定し、その政策基本方針において「環境対策」「住民参加」「重点化・効率化」「維持管理」「情報化」の五つのキーワードを掲げ、「人と自然にやさしい県土づくり」や「快適で安全な県土づくり」などの施策を進めているところであります。

本県には、活動を続ける岩手山火山や、急傾斜地が連なるリアス式の三陸沿岸など、土砂災害に関わる種々の特性を有しております。

このような状況にある本県をはじめ、東北各県の特色ある砂防政策の展開に向けて、力強いご指導、ご支援をお願いいたします。

宮城県砂防水資源課長



星野　和彦

東北をデザインする整備局

県は補助事業という牽引車に乗って、直轄等の事業と併せて県土づくりを推進してきた。補助というルールは変わらないが、分権の時代に期待することは大きい。機関委任事務に基づく指導が、法定受託事務という対等の関係に変わることにより、県の独自性をより発揮できるチャンスと捉えている。横並びから抜け出そうとする各県の個性を生かした東北のデザイン。困難な役割と思うが、整備局の真価が発揮される世紀と考える。

秋田県砂防課長



今野　義雄

東北地方整備局への期待

山紫水明を誇る本県は、山地が多く土砂災害の危険箇所が数多くあります。このため、県では『あきた２１総合計画』の中で「快適で安全な生活を支える環境づくり」、「災害に強い県土づくり」を目標に掲げ、砂防、急傾斜地崩壊対策、地すべり対策、雪崩対策の事業を鋭意実施しておりますので、東北地方整備局には、地域に密着したきめ細かな御指導をお願いいたします。

山形県砂防課長



武田　正

東北地方整備局に対する期待・要望について

本県は、県土の約７割を山地が占め、月山、朝日等の広い荒廃地を抱え、昭和初期から直轄砂防工事が施行される一方で、羽越水害、温海災害等多くの災害を経験しています。

安全な県土づくりのため、今後さらに直轄砂防事業をはじめとした砂防関係事業を促進し、また災害時には、関係行政機関が連携を緊密にし、対応の迅速を図っていくことが重要です。今後とも県勢発展及び県民生活の安全のため、諸事業の促進並びに災害対応等について、御指導等宜しくお願いいたします。

福島県砂防課長



齊籐　敏明

東北地方整備局に対する期待・要望について

本県では、県民の生命と財産を守り、安全で安心して暮らせる県土づくりのため、砂防関係施設等の整備を推進しているところであります。

このたびの中央省庁再編に伴う東北地方整備局の発足により、これまで以上に密接な情報交換、事業調整が可能となり、砂防事業においても効果的な実施が図られるものと期待しております。

なお、ことしの７月７日から９月３０日までの期間、本県の須賀川市において、「うつくしま未来博」が開催されます。また、９月１３・１４日には第３３回砂防学会シンポジウムが郡山市で開催され、現地調査では未来博内の２１世紀建設館、環境に配慮した砂防堰堤等を御覧いただく予定でおります。この機会に多くの皆様の御来県をお待ちしております。

福島県河川開発課長



三浦　定

「安全でやすらぎある県土基盤構築」へ更なる支援を期待

本県では、昨年、新しい長期総合計画である「うつくしま２１」が策定され、これに併せ土木部は「新ふくしま県土建設プラン」を策定しておりますが、この中でダム事業につきましては「環境共生型のダム建設の推進」や「適正なダムの維持管理」を掲げ、「安全でやすらぎある県土基盤構築」を図っていくこととしております。

この度、地方整備局が発足し国との関係が極めて緊密になったことから、今まで以上に本県の実情を御理解いただき、ダム事業を計画的に推進するための事業調整、予算確保が図られるよう期待します。

仙台市河川課長



佐々木　俊瑞

東北地方整備局への期待

東北地方整備局の誕生、おめでとうございます。

直轄事業においては、従来よりご配慮を賜っておりますが、この度補助事業に係わる事務が整備局で担当することにより、さらに地域特性に応じた地域密着型の事業推進が図られるものとご期待申し上げます。

本市では、基本計画「仙台２１プラン」を策定し、すべての市民が安全に安心して暮らすことができる都市づくりを推進しております。

最近の東海豪雨の様な都市部での災害が多発しているため、今後尚一層、地方整備局及び関係機関との連携強化を図り、災害に強い都市づくりに取り組んでまいりますのでご支援とご指導をお願い致します。

編集後記

東北地方整備局が発足して約２ヶ月が経過し、河川局所管事業の本省ヒアリングや各県との打ち合わせ等、毎日が新しい経験をしている状況で、整備局としての重い責務をヒシヒシと感じているところです。その責務を果たすためには、やはり「連携」ではないかと考えています。今回も連携会議や地域連携シリーズ、各県・仙台市の課長さんの声を掲載しました。

地域の話題、技術紹介等の積極的な情報提供をお待ちしています。投稿などを随時受け付けますので是非御一報ください。

本誌に関して御意見、問い合わせがございましたら　地域河川課　までお願いします。

発行　　国土交通省 東北地方整備局 河川部 地域河川課

〒980-8602　仙台市青葉区二日町９番１５号

℡022-225-2171(大代表)、225-2024(直通)　　FAX022-282-6690

